



神
中
海
島
竹
山

中村俊定文庫
文庫 18
1018
3





袖中抄

第十七

ひりゆらまの
久しこれまに
おとすて山
はじくまむく
あまれすそ
あまら
ゆらり
まら
ちをかく

たひげ草



あられ山歌
うまれ
あひらのま
あまらふとらり
まら
まら
まら
まら
まら
まら

そそむ川
ちりひら
くく

えはは時あれたる
おのあはれ乃とれ

袖中抄第十七

いづれのみ

たじけん

いづれ乃野中にきそはひしひき
くくくもきけはひしひしと

顯眼云いづれ乃紀伊國よあはれ者也ひひひ
松と云ハ考述了皇代皇子小南宮皇子と申
之は後思年宮^{アタリニシロシス}天皇代^{無明了皇}か乃前
小松とて自傷^ラ松枝^ク歎いづれ乃松
く多成む手^{ニサレク}真幸^{ニサレク}ゆくはまらるるん
は尋らる事たうりていづれ乃松枝とて

事らみり一先かきゆあり

大寶元年小文武天皇紀後圓舟葬之始御
共小作て造書成みく人丸くまゆ奇

乃ち丸くとまゆむゆへゆひく一ゆり

こまゆのりね成又みきんくも

吾君教云むむひ書乃んくも向く云周半也
松の葉成むゆむくこれりきけゆんゆ成むか
里らんとちりひて造ありゆてまゆくゆ六
とよむあり

白波乃くゆ松く紋乃くむゆけ草

いく成まてふりくゆ人わん

書成造て時ゆたりひて花成もゆ葉もゆ
高クもゆ也高草とハば成中也私云け款ハ
幸記傍圓之時川ゆ皇子作也こ乃高草
とハ高草とゆ成ゆ成礼部イハのゆハゆ
ゆ草とゆありてゆふと云ぎゆゆゆ
款ゆゆゆ神系藤奇云

あゆれ乃神のま成ゆりゆ成

たふゆゆゆゆゆゆゆゆ

られゆ草款

今考古語拾遺云以真障葛為髻以薙葛為
年繼以竹葉飯禪木葉為年草今多依作
者多依竹草ハハ年草歟後賴齊云

高草志けき玉えのそれまの

世よ久しくもあうためしう

吾君振云道深る人をも代と云取れあふと
あそそせふ人の墓也猪雲と云とあゆ
にうへふ末ありあまハ祝取あてハふじま
きくハ成云ハ僻事ハあや後冷泉院御時
よ永業四年十一月九日乃歎念也

友

能同法師

善日やまのいんひれ雲ハきみくさ免
あせ乃ころハまろの代ぞ人ん

友

資仲弁

わう乃乃おのれ風お年あれと

ね乃みよりハうらうらありま

これ成大ニ系殿と申し開白殿乃之産あ
ハせ給ていま判志れ定尸あまあはきこ
善日山とよふれあ人歎といふはうん
はおも及まうハ中あせ給れハある事と

て又ゆはひる事とあつて勝より藤氏乃
長考ふて尸あせ給ふれとせたまき事あつ
やらふより志奇ハ石代乃妻よりぬれき事と
主産ハゆはひる人もあつてやんふより埃
主人乃よりこころれとゆうもあつぬいゆ云之
とそ他志尸あせさるゆき人の子ハ野實乃
宰相尸あせし一石代の松とわいあゆ事也
と云ふゆはひるそとぬ石代乃あつて代わらあそ
くも子よりつたられ一あゆま石代の妻
こころせさる人乃墓の儀ハあつてはたあつて
あつて

乃位ふはき給ふまがあらもあつてよかぬ事
あつてゆよりひわりきた人ゆはひれたらり代々
と秋合よハあつてもあつて人ハいともあつた
一とともきこえはとゆう申あまかりか
つ或書云人乃墓よあつてゆはひるゆはひる
と云事わりとつりてあつて援事秋或ハつら
らつ書成しとつてとつて代云或ハ信吉よ石代
と云あつてとつてあつ

行語抄云思ふ天皇はれは子物よりひて
と死給ふ今云は事あつてあつてあつて

齊明天皇四年戊午十月辛丁紀伊國高野
有間皇子誅友被誅皇子也於船代造石墓
義位告義不_レ去_レ者又_レ不_レ去_レ者桑白病歿友
皇子後_レ誅友被誅專_レ不_レ去_レ者内表奇人金款
然未_レ及_レたり或_レ乃_レお_レ人_レの_レ風_レお_レし_レられ_レる
てもありわへ_レ一_レ百_レ葉_レ家_レ持_レ奇

やら草花のつるりふとれたあは

春のさげ花のまじしむらん

是_レ報_レハ_レ不_レ代_レあ_レる_レ縁_レと_レ踏_レま_レと_レあり

志乃山越 志乃花の

あふるむ志乃山あせし今

あふららひはむあくら_レり

願_レ報_レ志_レ乃_レ山_レあ_レと_レ北_レ白_レ河_レ乃_レ海_レ乃_レ系_レら_レれ
わ_レり_レて_レ如_レ意_レの_レ峯_レあ_レえ_レて_レ志_レ乃_レ人_レお_レ係_レ路_レ也_レ徑_レ於_レ郷
記_レ云_レ後_レ一_レ系_レ院_レ造_レた_レ殿_レ上_レ人_レお_レ系_レ道_レ造_レた_レ
め_レふ_レ志_レ乃_レ山_レ越_レひ_レり_レり_レ徑_レ於_レ丸_レ生_レ山_レ面_レ歩_レ行
と丸_レ生_レ山_レと_レ白_レ河_レ乃_レ海_レ乃_レ系_レ上_レあり_レ惠_レ慶_レ法_レ師_レり
淨_レ台_レ寺_レ和_レ身_レ席_レあ_レも_レ月_レ乃_レ光_レれ_レた_レる_レ
う_レの_レふ_レ乃_レあり_レか_レき_レり_レ丸_レ生_レ山_レ乃_レ山_レ越_レの_レう_レこ_レも
あり_レけ_レ寺_レ乃_レ結_レ固_レる_レ乃_レ系_レ也_レん_レえ_レら_レれ_レは

も心ひりき人乃ちゆれを成りて
後よ初奇かよひしとよ長能いし
かよそしよわきう結固も^テ長能お^テ伸^テ
故玄果ふも人よ勝也長能^テ久^テ但い
奇乃らん古今春下志^テ山^テ女^テ此^テ月
くめりき^テよ^テみ^テく^テし^テり^テき^テ費^テ之^テ

あつらひ乃山を成りしれ也

乃もしりあへは花そちりき也

け奇よ女成花とよみあれい^テ結^テら^テ志^テの
山^テせ^テ女^テ何^テあ^テら^テし^テと^テ花^テ成^テあ^テも^テわ

柳志^テ成^テ山^テ成^テり^テも^テし^テ事^テ也^テ古^テ今^テ秋^テ秋^テふ^テ
志^テ乃^テ山^テ成^テそ^テう^テあ^テ也

山川よをるうひ^テあ^テら^テみ^テ

あれも何人お^テあ^テり^テ

周冬^テ志^テ成^テ乃^テ山^テ成^テあ^テも^テあ^テ也

白^テ成^テと^テら^テり^テし^テら^テあ^テら^テけ^テハ

思^テあ^テも^テし^テく^テ花^テと^テう^テあ^テれ

又^テ別^テ部^テよ^テ志^テ成^テ山^テ成^テあ^テも^テあ^テ也^テ山^テ井^テれ^テに^テ
て^テ物^テの^テ心^テあ^テり^テあ^テれ^テあ^テら^テれ^テあ^テら^テれ^テあ^テら^テれ^テ

し^テあ^テも^テし^テく^テあ^テら^テれ^テあ^テら^テれ^テあ^テら^テれ^テ

わくそと人よわかれわたり

頼集云志賀乃山越九月志賀の山ありてむと
丸若未嘗忠君屏風の奇

山ありて乃風ふお葉ちりゆげし

しり波そまのまのまにま

十月志賀山越の人く西の屏風

と成りてしりてあつれ山ありと

時ありてありてありてありと

頼集集云或乃の屏風乃畫よ志賀山ありの
名よまへとされゆもみしりてありと

しり乃のしりてありてあり

後拾遺 花冠満路 橋成先

しりてありてありてあり

しりてありてありてあり

今集志賀山越んまむ乃時よしりてあり

名よまへとされゆもみしりてあり

しりてありてありてあり

よも志賀乃山越んまむ乃時よしりてあり

集小たえありて志賀山越んまむ乃時よしりてあり

と云事平尊院僧正集よ八巻版乃花

乃ありとひかり

むさうらふやこ

久このむらゆきそて草枕

ぬむらむらゆきとて海へん

題昭云久世と八月とひよきく成りよとひみ
たこと都成よめゆ事ハちま成り万葉集よ久
くことし或虫^{いキヒナ}久^{ヒナ}固と或虫^{いキヒナ}久^{ヒナ}方^トなれハ都とひ
むくむらゆきとて海へんと云然童蒙抄云帝の
むらむらゆきハ天國とひよきむらゆきとて
よせそよめゆ然日本紀あり帝宅と書

てとむことよめゆりゆへあり

私云天國ハ日本紀よんくむらあり

よしすて山

我らむらゆきとて海へん

よしすて山よめゆりゆへあり

題昭云よしすて山とんちまありとて
は母らむらゆきとて海へん
云よしすて山よめゆりゆへあり
私云わらむらゆきとて海へん
きゆらむらゆきとて海へん

おんえそまうめふとそ考大和物語云信の四
り〜れと云おも男はみりりわね時よあやハ
あふえれハま〜紙あんあやらめ〜わ〜り
あひそひ〜わほよこ〜めふい〜ら〜ん事
おち〜そ〜けきうと央のむ〜ゆりぬ〜紙の
秘よあ〜そ〜け男よよ〜け〜し〜ら〜ら〜ぬ
〜あ〜も〜う〜紙はゆよ〜り〜き〜せ〜れ〜じ
〜う〜こ〜も〜あ〜ひ〜あ〜ら〜う〜あ〜ほ〜じ〜あ〜あ〜く
〜ら〜よ〜し〜れ〜ぬ〜め〜あ〜あ〜ら〜ら〜け〜よ〜し〜ら〜ら〜む
〜あ〜あ〜あ〜め〜い〜ら〜ら〜あ〜あ〜あ〜紙〜と〜ら〜せ

うあ〜し〜ま〜し〜そ〜あ〜あ〜ら〜ら〜あ〜ひ〜く〜め〜し〜ま
〜し〜ふ〜ら〜た〜は〜よ〜ひ〜そ〜ゆ〜く〜ま〜紙〜せ〜あ〜れ〜と
せあ〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
あ〜ら〜た〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
わ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
よ〜ひ〜き〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
あ〜く〜し〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
も〜し〜あ〜け〜し〜し〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
〜し〜あ〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

冠乃やうふ似とわやそれなり乃ら月とてあく
しやふとよめ心也今業後頼親とち物物候と
れかきふたうりの物候よといふ事ハめり也故に
ひえりかひりめりこれとひてやうふり高可
府物候乃まひ取けとてししてめ候より候に
山城ハもとて山とハ可也あく故人あめあくと
めりたれ候とてとも又其乃月とあめても
あく山城より川と云ふ候と可録なりと
すくたらん事ハとてあてともあてとも山よ
て山月とてとてとて録候物候ハ由縁候

と書てハ詮あきれハあもたうりあ候古録と
出如候定事也或ハまゝあたりと記候事ハみ
とてあつともしひ乃事也故東ふハよたり記
國ハ信濃也甲斐とて乃り見乃りも乃り
かり候故よりも上也其國中にとてしして山
たきれハ月ハ海とてあつとて候ハ信乃
へつとて事候人ハ母也
月新とあつとて候とてあつとて
山乃あつとてあつとて候とて
とてとて山城とてとて 乾永朝臣

あひ乃たのま

我ももろあめくぬれぬひのま

まももろあめくぬれぬひのま

題詠云あひ乃たよ山城の亭枕権乃尾と云
所成ハ意悲のなありとつらりあまといひ初乃
んも我町の流乃断のじきよよと云ハ浄古よ
可也穿らんとうあめ也推乃れとめく法文の
んも不辨然殊如式云雨く滌滌然と總須
於渡河

あく海あふあめくぬれぬひのま

三十三

あまのりあめくぬれぬひのま

流之流浦咽聲云岡於枕宿よりたを乃 如前

今云前亭亭わつらり川よりを合秋八併乃意

悲よせつらり或がめとあひ乃たのあとあり

そもあ方乃んあてあはは岸とあめもは

岸のん秋共有る深る亭考澄也

わづらうとらうた

あうとみ乃あまれすうそ成ぬりま

い乃らうとらうたのためり

願昭云あまればはくそとハあまればはくそとすうそと
 菅之そハ麻也ハカヒ種タネめハ麻も菅も入也約句
 ありとみら申カトヒ種タネの心也あうとみれあ
 うりあふとみらあり又万葉歌云とや一
 のそ入ぬもてはうかうむらあきつとそ種タネこあ
 て志のそんけいそ入とつハ種タネとありあふはく
 と云とんたわひうあ一あ菅ふ事わらあり
 あふのあは種タネ種タネえハうかうむらあきつとそ種タネといえ
 事いうとれたる菅もよふぬてりと言種タネ種タネ始
 式云製菅麻也ハカヒ種タネ神終得示於今日ハカヒ日ヒ柳木綿

相社ふ未知起於難世と共古神事也

けりた葉よほよとり志つた世ふり

種乃いりた試ひとみそあまん

ありとみらあうりあ

ありとみらあうりあ

わふ命もたうぬあふたれ

願昭云ありとみのあはりあはくそ申種タネ種タネ

わふ命といはる心也あはりといはる

らぬうとみらあふと云はくそあはるあり

ありハ心也法也うはくそハ事也万葉家持

造酒類あり

あえき地

まろあし此屏風のあしをいふ

我をいふ人の座をいふ

題昭云り八きらして神のまゝなり神
系は八むと云ふも又神は八むの座あり云
里又法社行事ありと座の座をいふより
なりたらと云ふは神の座をいふ事也

孫娘式云漢國屏風畫勝我神之立座倭例

屏風類釣故人之景略 共右神奇也

神のふいぎをいふ

も八毛もいふは神の座也

和云下句類也又神のふと八毛神をいふ

と云強得又神風と書たりと云

あし

ちやちやも此まろのたまもろ

きとえはあしあしありけん

題昭云玉ろく玉楓也玉首玉鬘カサもまもれ

わもまれと云ふは神の座あり 孫娘

式云後感之味左法緒之可知為新四月子

他方参之宸効

感ありて人の由らるる由ら

杉のあふはるるをいふ

是ハ上句入るはうの言詞也安樂行いハ

如乾

極あり

梅のえよ極ありをいふ

しあふはるるにあり何んか

願昭云ゆありとハ極ありと云わし

ハとふと同書也古今苑勢高云鞆極

りり似縁繩懸堂中ふ以わ被也疎非式云縫
織以笠條節お云用柳緑懸懸杖管の鹿
判梅針よ

青柳をいふ

わよと云うあり梅のり

上句あり

せ

るるあふたえわよあふる川や
きみのとあはれき

願昭云これと川とハ考或云大和御社

賀茂者日向常之高千穗峯天降坐神賀茂建角
身命也神傳盤余比古之市前立上坐而宿
坐大和葛木山之峯自被漸遷至山代國
畠田賀茂隨山代河下坐高河子賀茂河
所會立坐見廻賀茂河而言維狹小然石
河清川在仍号石河瀬見小川自被河上定
坐久我國之北山基位本特名曰賀茂建角
身命娶丹波國神伊賀古夜日賣生子
皇依早次皇依日賣於石河瀬見小河遊時
丹塗夫自河上流下乃取梓置床邊遂感孕

生男子至戊時外祖父建角身命造八尋屋
豎八戸扉釀八醞酒尚神集々而七日七粒樂
醴然子語言与汝父思人令飲以酒即奉
酒杯向天為祭即穿屋窺而昇天乃自外
祖父之名號賀茂別雷命今所謂丹塗夫
者乙訓郡社坐大雷命在賀茂建角身命
丹波神伊賀古夜日賣玉依日賣二
柱神有菟倉里三井社坐也婦玉依日子者
今賀茂縣主等遠祖也其祭祠曰宗馬者
志貴鴻宮御宇天皇之御世天下舉國風吹

雨降今時勅下部侍者若日子ニ今下乃如矣
神崇也撰テ日月吉日鳥繫於人蒙措於而
駢馳以為祭祠能令禱祀固之五穀成熟天
下豐平以馬於於也

多さけり哉

そのまはるのひのく乃多海り記
ふよふ海りくは世りく玉を心と

顯昭えぬまはけりきと六芳万葉第廿卷云

正月三日侍後略皇子王良木令侍於内裏之東

屋垣下而即賜玉第肆宴タマニ時内相友原

朝臣奉勅宣諸王卿亦隨堪任意作歌賦詩
仍悉詔旨各陳心緒諸人奇未如松云以歌ハ
家物也但未奏之今葉玉第とた戸りり
他奇賦詩とハ出カキと何物を玉と云と
云と六人とも此方の趣著次又万葉群物
歌中よ知玉掃カ天木香車を

玉と云とさうわおう海り後じろ乃あし

るのめりまをうくさこりうんため

私云は祿乃髓スエノウ觸おん玉と云とさこり著目とら
るのこわらふおんその草の成小松りさうり

くもへく正月より録乃日ありひびの屋成も
けは海あぐむつてせとひらあやと戸たまて
け万葉集乃歌もそのあよりあつる禁中
酒くりてあそひせしめつるもあつる事あく
正月三日乃壽とあ積と初子日あくいあり
も志きん次奇あそひむもあつるしり集
まああ成よみあれた正月初子之日れ題と
八変入すむりあつるりこころあつるあそ
去草と八言やいさつにあそもあつるた
け物とあつるあつるあつるあつるあつる

初子日

言者物云むとく記とあ著とああ初子日あ
初成記とあつるあつるあつるあつるあつる
しりきり初子日こころあつるあつるあつる
乃や初子午乃とあつるあつるあつるあつる
あ母物とあつるあつるあつるあつるあつる
もあつるあつるあつるあつるあつるあつる
りあつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつる

とら玉といふおとこ人あらん位いむら
きの奇い昔^{ミヤス}系極^{トコロ}津息所より時平乃
れとる乃津娘也昔^{ミヤス}志智^{トコロ}さるとして^{ザシ}験し給
き海取人海うて給多海乃よ岸^{キレ}のよふ侍を
海老法師津車乃抱ら成わけく水うまれ
とみ給多海小同とてあてせとくさつりてけ
り津白杖おほりて糸くけ由成りよとせれ
えり海事あらんとして南面乃目か〜^ササ
る〜あられよるり津屋とけうあけてみ
給くれと津ふたまらんとしてふきつりて故

ひくお女ととけくゆぬ津支海つハ〜
らふむらた〜ちう〜ん我〜一〜九十に〜ひ
ゆりあんを海よ七十年ハ〜ひ〜人よ後世菩提
のい〜あ〜めり老よ〜ら〜也^{エカウ}向〜た〜まら
ゆ〜と〜さ〜ら〜あ〜海津也〜
〜ら〜あ〜海〜の〜る〜志〜海〜人〜と
我〜ら〜ら〜め〜人〜抱〜く〜む〜乃〜と
と〜を〜作〜ら〜れ〜多〜海〜是〜誠〜さ〜して〜悦〜あ〜〜と〜あ〜
あ〜く〜ゆ〜よ〜ら〜り〜と〜徳〜因〜法〜師〜者〜大〜細〜言〜ふ
結〜了〜海〜よ〜け〜親〜八〜万〜葉〜集〜女〜卷〜よ〜あ〜れ

人新介乃其事あくそ是人小物終乃
ひりあつかりよへまめい奇あは万葉集
とありあれたがしありけあはあつひり
奇め十餘首あつれいあひりあ一尋長
持くくまゆりそとあ志つくと云詞也玉のそ
とん命と云事也あまはげ津彦成りたあ
ふよりて志りて命あん乃むわるともあは
あせは事あつれとあうとあうとあらん
りためふああゆり也私云あ万葉者いあ家
持奇也此老人之新作歟也老人詠古歟也

万葉本ふい奇了首無不定之有尚被擬ぎ人
之詠之系あつれ謂万葉中其巻和歌欠が
十餘首ハ偽也也出字之る自然不也終也
新簡由緒あ甚深之要あつ万葉時代と勅文
又ゆりてあ志つくと云ふああひりあはた
あ持くとも申ハげ奇あていゆああ云詞
とよりまいゆれあうまううんたあと云か
まい云ふけく詠也本あうまああああ
詠量あああああああああああああ
あああああああああああああああ

傳く正月乃初子ふらへ也奥義抄云玉
つれを祝の抱めして年乃始よ人をも
免抱ゆくわきハよふとゆりた余乃よ
よあり行信抄云出つてもとら初子日誌
お免くよあれた共可云歎童世のよら
ゆられよ妻あれた玉帯とくつらよ
おみおまかせん

わらつちよふ白くゆあぢ
あよまかせん
顯服云まかせん奉とら初也万葉よ

我まお成るに奉志は乃抱うこふ
まをみけて思ふはつりよ初人の抱成今よあひ
初之時有前幸娘子寵薄也後よ還賜寄物
俗云可多券私云つりよすハまは同親
あはつちよふあひつる衣ハあまのよふ袖
よあは回事也あまのいさよとあまよと云
出乃うすまおとふあり
ちと燈かかく

青柳乃わつえらあかり
あうやとあしよとあしよと

頼昭云らむははらふにふらふにふらふにふらふに
はふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
万葉集の事ふもふもふもふもふもふもふもふも
はふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
あふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
いほらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

たふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

然昭云らむははらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

きありふ

ちふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
今ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
いふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに
ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

ふらふにふらふにふらふにふらふにふらふに

うあ〜くあはまなてき〜らん

於胎云お母さ〜にはまう袖むの〜ら海をて
た袖成ああひ〜はさそむり〜は古今
あも

袖ひらそ緒〜水乃ちたあ書まの何ちさ
け後撰乃ち中〜に袖むの〜あ〜あ〜あ
たうす〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
白も水よ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
ひあは袖むの〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
是もあもあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

云いお母さ〜あ我袖むの〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

私云〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
私云ら〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

お唐申題タテふ入ありえりはとれたあきとひうり
 めもじまらりあも攏乃うあふと元獲とひふ
 あり世俗おもえんそかりひひかえひうな
 らひもえりんと紙云せそれとつらひく
 不獲元時トキあれたと云せそれいあ申のあれたらそ
 極くういか乃あれたらそ極くうとあひうあふ
 と紙もあゆせあつらえてえすカレとれたあき
 とらじ人の辨事へは建建志あつた也
 ちり也他

ちりむられりすあもあわぬ我極入也

あひひとあつらんいりかあつ

能昭云ちりむらとハ磨らねと云せちりとひら
 と二乃相ありは紙いひらりこやうあ紙略し
 てむらとも云也執あもむらほらうたえ
 きたは紙とととありはひひちと云むら
 と紙と云せこれと紙紙よハ磨らとちりむ
 ちといふと人あまらり古今席云と紙とあを
 いあは紙とととらりう海りてと一月紙よ
 めりたつとととあつあちりむらとらあり
 て夫と云たあひくまてあひらあま紙とせ

くふけ身もかたはあしあうへし居昂座
衣裾云十里始是下高山起微考とい文と
うきふあり字事ふも磨埃とく死くはちり
とよそてちりむらとんしよけはあふみあ
まうかしくあう航を海しり
ねかあきき乃き死

天のれとあかしくみ大志城乃

時よあし縁とさうられまふ

然眼云万葉云神卷六年巳巳大長屋
五賜死之後倉橋部女事作方也あはあ

き乃りりと云取乃あはせそれよはきそを
甲戌もたはあきと云とより乃乃あに
いむりけ秋の初も七屋五賜死とかきふも
あ月つうあしりあはあふもあしり
死きんはらひとも成あまの事あやを
あわら時よしうあまうあ入きよあはさ見
乃みこかこあふう縁とあまのあとい免
はよや大あきと云事森あし縁と人乃
あわら事ふも云へきあやも縁りあや
奥誠とせてたしくはらとらみたきひき

ともしあり奥城ともし奥城ともしよ
めりあまの^{アラクキ}大慈城といふあまの
ともしつるあまのたまと云同公也たま
かこゝろあまのたまとあまのたまとあ
日まれの月ともしあまのたまとあ
らあまのたまとあまのたまとあ
て大あまのたまとあまのたまとあ
う

我あこれにたれに海と

那^カ眼^カ云々一海^カの^カ鉤乃^カ字^カ成^カあり^カ因^カ曲^カあり
在^カ指^カ上^カ者^カ銀^カ在^カ臂^カ上^カ者^カ鉤^カといふなり^カ此^カは
乃^カら^カひ^カあ^カん^カと^カいた^カす^カれ^カとい^カふ^カへ^カ一^カ又^カ鉤^カあ
る^カも^カあり^カ和^カ者^カふ^カ農^カ耕^カ具^カとい^カふ^カは^カ
万^カ葉^カす^カは^カ櫛^カ弄^カに入^カあり^カ六^カ指^カふ^カ同^カ
あ^カら^カい^カる^カとい^カふ^カ事^カと^カ不^カ知^カし^カて^カい^カふ^カ
子^カ櫛^カと^カい^カふ^カ事^カ

第十八

燈りらけらみ

あはれおめあひの

あらけりかき

ハリーらるる

ひきえら福ひらけら

じろのわー

すゑ乃ねら

あーまーあー

きよのかそめら

あゆらら

袖中板第十八
 歸りけり人

そなたは遊りたりみえたりな

おひねもつひうそをうらん

船形かりたは遊りたりかきみとあるらり

くはえいふ昔シユウリヤク雄略天をそとみりこ

とふらばにりきり遊ふ出ま物一ふ

まひまゆふ津鷹そりて見るは野守紙

やそとらねまゆふれきりけあり紙紙

いらあそあに井あうたまうら紙紙

うしにわいさうふ尸そとてせたまひされ
んい遊にいはつ水ようけらうのりしつ
へ尸うし紙考りうらり遊ふあゆみ紙え
あたりれ遊りり乃かかんごん云と尸はしえ
らりあつてふそれうらんといふあゆみ無者
扱あんい事紙云ふ者知た身とてきりり
まといあつてふそれと古うりたわくの雄略
とてけり又彼天守り紙とらとけり一四
史あまんとらり又野守境と八徐者り境
ありて境へ人乃んれ肉紙とてせゆかかん

あつていしした境あれは世人どうもくはう
らりりこれあつて我もちとけしとあつては
う乃あつてはうとそとらとそとては中志
いつてい海ことれらんとてけりし奥義扱ひり
それあつてはうとたうれ遊りり乃境とえへき
扱へあし私云徐者り境乃事了考之但
或古扱えげ親も奉古奇二首也とてた
れ乃りりらうとてえとてうああしき
人の親やうのほや

あつてはうとてえとてうああしき

ありはれもいふよきあつらん

とらめは城一首ふりきりやき

今案も徐君の境ありたりたりといふ
はまらとてこそいあつめあつらとら
とら野といひらん料ありつらとら
かゆれははらふ也但きりかふえた
海事あきれたるたりたりりの境
つあわかたは又或扱云野守乃
野守も鬼乃りたりはらみあり
人乃りたりはらはらしといふ

とらて園五れあすも鬼とみり
野とあきつらんとらはら園五
小きとらとらとら境ありとら
載記云秦始帝即位三年夜有鬼而
境也徑三丈也病人以境察病人
五藏皆見知病不在也始帝崩後
亡也又西京雜記云高祖初入咸陽宮園
府庫有方境三尺寸表表有明人
更初倒見心掩心而來即腸胃五藏
無礙人有病則掩心而照之良知病不在

女子邪心^{ナシハ}別膽^{キモ}決心^{ハリ}動泰始^{ナシ}帝心照^テ宮人
膽^ヲ今棄^ニ西魏^ニ相遠^ニ載^レ就^テ境^ヲ子始^シ也^ニ也^ニ
雜記^ハ高祖^ノ入^リ咸陽^ニ見^ル境^ヲ

又鬼乃^モか^クふ^ルも^クま^ルの^ハは^レは^レ五^ノ々^ノれ^ト
あ^の次^才ん^あ一^うあ^らは^レ又^待措^取子^曹
文^リ破^境乃^事あ^て解^ス一^キり^まハ^鶴境^也
也^一一^たた^れ野^のり^乃境^と云^へく^は或^も
た^らぬ^ま紙^のり^れ境^とん^らあ^りた^り
と^そく^まく^いぬ^くあ^ま紙^目あ^てく^れ
ん^あり^とま^今云^あハ^野字^れく^も也

あ^のく^く

う^たら^ぬゆ^まあ^らは^レま

あ^らは^レま^あら^はレ^まあ^らは^レま

ゆ^まあ^らは^レま^あら^はレ^まあ^らは^レま

都^服云^うあ^らは^レぬ^ゆま^あら^はレ^まあ^らは^レま^あら^はレ^ま
は^まく^二乃^もあ^り一^あん^並あ^らぬ^乃楊^と
云^あり^一あ^ん並^あら^ぬと^んむ^くた^るり
く^くた^ると^いふ^一一^回答^抄辯^論云^うま^あ
あ^らぬ^ハ誤^也く^くた^ると^可云^也く^くた^ると^可
い^ふと^非乃^から^ずた^はは^らふ^くま^れ也^う

あくまをいふもあはれ又の名ははらへたふ
 ありふいふや或人云位者明神あまらるり
 たまふはすまはくくりあはれ神殿乃そはと
 志月あはれくはのりてあはれきあはれあはれ
 くありらるその極入とあはれあはれ
 たまらるるんとて彼の神乃そはの御あ
 りてまたそはのまはれもあはれ也
 奥義云い款
 一奇福義と云はれあはれあはれあはれ
 あり是は位者明神乃あはれあはれあはれ

一とていふはそはのまはれ也と云はれあはれ
 達乃あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 きこゆあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 事にはあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 云うあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 一とていふはそはのまはれ也と云はれあはれ

又忠告なり

是はあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あつふわなほへきめてあま冬るくおれ乃
飲とらじ事ハいゝおきこゆきとらじ
あふはきそふあゆやうらりおれはふ
ゆらゝあゆへし又涼姫武云銀漢鶴之
會橋在夜提而降風おれやあゆ夜やう
すきうあゆはゆきあひの橋おれやあ
とまきゆ

今葉めけ武者うあゆはと云流哥竹歌又
あゆ哥あもあゆは乃を縁おれあゆ
ひきうはゆらりやうら福んまきうらゆて

中宵ふおるありあんうあゆは乃ゆきあひ
乃らふあゆらめれせと今葉よけ後れ哥
ハ七夕れおとまきゆらり又うあゆまけ橋は
く鳥鶴橋とらきゆらそれけは近代織者ハ
うらひとかあゆはとららりけらうらゆ橋
あを畫よハ虫とらゆは又或古物よあゆは
乃ゆきあひのゆは曉乃者ありとらゆらゆ
あら乃らうらゆまきのゆらまき

あつひまき乃あらゆらゆらゆらゆら
あつひぬおれわきそらゆらゆら

能昭云志ら乃こゝに記とハ二乃義ありのこま
人乃家れよの具に榻まと云物あり人乃ま
へより又わろ物也けいころもむれあまの
ももろは上カキ達部タチベの僧ガク總サウの車にわろ
ろ物めそ事人よびつ物めてあまのよま
りせと事その志らよ百物あひのま整る
志と事わろそれよいあひよあ物也き
りし夜うれとこよしあつてあまの志
ハ燒よとよね書れおとあつてあまの志
こゆ事ハりいり記とこよし記とハ二の志

よあつてこゝに記とハ二の志
秀倫并云わあつてあ物め然ようよあ
きりふらつてあ物め然ようよあ
とあつてつ物めさて物つひとあ物め
きとて是う人よ志たて百夜あつてあ
時よらん事ハきうんといひたつた
了ら事ありといひとあ物めとあ物
らつたハあつてその志ら乃人あ
きり撮乃人あわろ物乃つて然り記
りつたハ九十九夜よあつてい

あはれおのりいさふ事しとえりあひ語りしあ
とりのたておとくさくたうしれとちうさ
ふねや乃あしうふ志あまれのそれあしり
てとゆりおきりそれ時ころあれりしり
らみくさせらりうほす也それあさふ
答ふあはれらる古集よりくさ事也
又云曉の志きうねりきうしうたきうこぬよ
うたれさうすかく昔あはれつ男とたのび女
らきりあぬよれうあはれくさ事のうす
いとくぬらされりれいあようす然あ事

あん曉乃志れと云鳥乃くさ縁くさうもあはれ
と云あうん一決或極是物云件寄ら古方三首也

曉乃あられうされりしうた

うさあはれあてしとあはれを物らふ

あはれあはれあらうさうたのあはれ

あはれあはれあうりあはれうさく

とりつ然しそふたきうしあはれり
今業云古今集中す五よけああり

曉乃志きれらうたのうた

あはれあはれあはれあはれ

西遊の野乃るもつたりのもれたはほくへし
 されどきくらつるもつたりのひあしそむ能
 女の笑のやと云ふす船離あは控の所
 又曉乃野の野もつたりの事とされ曉乃し
 ちたらつたあつたの事とつたあつたの事
 くれはつたつたつたの事とつたつたの事
 はあつたつたつたの事とつたつたの事
 里のつたつたつたの事とつたつたの事
 まつたつたつたの事とつたつたの事
 事とつたつたつたの事とつたつたの事

事ふさいふことそそむる所

奥義抄乃たもむもつたる向く

つたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつた

貫くもつた也

はろつたつた

西遊のつたつたつたつたつたつたつた
 くとつたつたつたつたつたつたつた

然照云はろつたつたつたつたつたつたつた
 小つたつたつたつたつたつたつたつた

又信賴朝は堀河院百首鹿島

彼こそ海中山の志の成れこそゆく

うほとわれは海乃りこそま

いそ我の信賴の鹿とてまうりた言とまら

仍くた氣地と相花集を彼入るり是の松乃

志の成れなりとてわれいそら入るとんら

まさら或人去隆源何園梨うりは橋の

なりそと橋の成れはとてまらうりた

梅城うらうりまらと八橋と云ふは

てふりそとていふは也

得語扱云みりは乃ハとハ橋乃ハあれはと

乃あれハあはよとていふは也

私云い事なはあやめはにりハと

はとあも相あとていふは

吾名物云いハとあもあははら

と海まのうりていふはとていふは

あや

ひはれ乃移りたうりも

悪くハ志いよをたしははれ乃

移り乃りうりもあはらうりあ

形胎^カまじりたる乃福のりれ家とハありたる物
ふりつハ昔じりたるの家^カまじりたる人^カと福
りたる家^カよむせよまじりたる人^カと福
まじりたる家^カよむせよまじりたる人^カ
あふ事然^カまじりたる乃福のりれ家^カまじり
たりあまれハけりもあまれまじりたる
あまれ人^カあまれまじりたる家^カと福
まじりたる家^カと福ハ根のまじりたる根^カまじり
わりものまじりたる福あまれまじりたる根^カ
ひりたる人^カと福也まじりたる人^カと福

うはたの福のりりたる家^カと福也
童蒙^カ扱^カ云福のりりたる家^カと福也
あまれの寝^カ扱^カの家^カと福也
すりたる人^カと福也
待^カ措^カ抄^カ云じりたる家^カと福也
き物^カよあまれまじりたる人^カ
私^カ云^カまじりたる家^カと福也
らる物^カありたるに及^カば
又業^カ云^カじりたる家^カと福也
乃^カあまれまじりたる家^カと福也

多岐いりんためふはる乃福ひりれ家とハ云也
けあわしるは但後拾遺云小式部内侍の料
小二条前右政大臣りめく海りぬとまて
堀川右大臣

今こそ福のしる福のしるはる乃
福ひり乃家うりため紙きん

也一

ぬきまぬらふのいんはるれ

福ひり乃家うりためありと

今付け身業ふたえ奉身ハ古今れ福ひり

乃家まよりのあさつふ事とあらせうハ
せんまのあまあんとよまれきあても
あこひひとらふらり紙まよいてハ
しあはけ物終乃やうに福ひり乃家
とりりたあはだんあひみきりとみえ
ひ事しう大切るれ又せ事ふもうりた
あたらきもあまといんさあは
もあせふさぬらうりてあやしありぬ
へまればようあまといんさあは
たまればあまといんさあは

いしつねにわたりておのりつやこ
とれよとつらひにぬしつらふ家徳まけ建と和
まの事ともいふなるもうよるに物也物も
堀河右将も泉守イッミもホウもそれまはつはるは
あつ事なれはあつあつ入つて
ひらりやー海

ふそつとつらつありともさつてい
ひらりやー海のまつりあつてい
知照えこれい實サチ方カタ中将もせいも海女等
志といはきやひらの創ハもふらつ

おひありともまよつてい
いそつとつらつあり中将もせいも海女等
と下節、回つ形中にも島あり倍いひらりや
はまともそつとつらつとつらつとつらつとつらつ
志といはきやひらの創ハもふらつ
そつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつ
そつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつ
そつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつ

憲 左 勝 橋 津

そつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつ

ま成らちま成らちひもじりうま

判者基後云ぬひしじりう海乃
贈ふもとよめ候いりふゆ人き事ふじり
の創しきふぬひ成てとひ何よ見
てゆふじりう創し海とら事ふあ
里ふ下野ふじりう創し海とら事
ありま二人う急きふあ候うまよ
じりわりの候成しありとて或よ見
ふ候いら成よいらてふ事れら候あ
らんぬとら成あてとぬひきとらふ

事まこ見らゆらうあれふや推成う事

風あけらじりう創しまれ文贈

ふらうらにぬらにら候うま

とよめ候もぬひしきたゆ火とらとら
ゆらありあさぬらきけし一のふま
しう贈ぬぬたやふいみあ候てゆ
めれいぬひきと成あしひひあく
きふいぬられてゆ成かくぬらひ
んら候あひくあてはあらの事成
みゆらぬあやら成候いぬ

後頼判云た尋めしんきくとつてはむら
とみやうをうんころじりては海いよと
乃其成めくおあし野中に志あ乃あうか
氣のくしう始とて梅成せそれよめくとい
らんいく但海よの始よのこみされいさ
とりあもつらんうわあくもんよ
私考後頼考云歳書

あつひらうむら乃年おはちうむら
も乃ありそそん経ゆはらま
い考の海いはじり乃創海くのみあは

あや志うのほこりた夜あ乃きひの海
よのちん成あへくぞれたりぞれてそれき
えきあぬあまあくほまのそあんじら
事成るあよのゆもやぬとんまきみま
よのやうあつ事さう海とあてはうまうあ
あやきくいあひあへ

すゑ乃きひの
志成まてあうしん成ううの
すゑ乃きひのあこもあひん

乃昭云すゑのきひのとの陰奥あわり能固

しつた事とりよせ異なりあつとよびあり
わつし國といふも異國也異國ハ他國なり
しつた事取らしてあつとよびありと云也
異義抄云これ山よあつとよびありと云
しつた事とりよせなりと云

今云しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり
しつた事とりよせありあつとよびあり

為通郵長乃うきつとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
とよありてとよありてとよありてとよありて
是の寛平の時后宮を合はる也古今の事
いふ事しつた事とりよせありと云
とよありてとよありてとよありてとよありて

かたしあゆみ人よ彰然たりてふいと云義人
まことそれ別事也まことらぬ心と心
ありまよまどうはつとふとあつんちあよと
はつとらふ心むいふれとらりけあも東
紂とりよふとらとらありあれあま
あつゆひあせはもちつとらひは
和語抄云

あつとらふ心むいふれとらりけあも東
紂とりよふとらとらありあれあま

今云これい今言同也相とらひあつとら

あり進唇の身が云

あつとらふ心むいふれとらりけあも東
紂とりよふとらとらありあれあま

又子業もそもまはらう心とらあ

藤永實言云

あつとらふ心むいふれとらりけあも東
紂とりよふとらとらありあれあま

あつとらふ心むいふれとらりけあも東
紂とりよふとらとらありあれあま
せつとら也東國乃縛布乃つられつとら

めくたきいそれらひ乃本成らひ也也えそ
乃そひの本成あーかーと口也その本成
えりそあひ本成あーあれららつとら也
ののあ母あよゆ人からつとらああ
まきるーにきらつとらあああ
あひの海也ああああああああ
あとの事いああああああああ
あまあ人ーああああああああ
あまてあとりそたてん事もああああ
か極あひ後義あーくもあああ

奥義扱去らひ乃ああそあーああはい
もそひまああーまーとらよ
又あまてあああああああああ
とああれと十あまてあああああ
又結固りああー

あーまーあああああああああ
ああ乃あああああああああ
是はあああああああああ
私云いあああああああああ
ああああああああああああ

おとし女、城よりくむじとあふとれた消息を、いぬ
て、藪城ありて、目ざし、一、束その女、家より、平
ぬ、は、の、城、あり、ん、と、あ、ふ、お、と、れ、つ、つ、ま、城、に
行、く、ら、り、の、道、は、ま、ま、と、な、る、後、い、ま、城、に、あ、つ、く
む、ん、よ、ら、り、の、つ、つ、し、き、い、と、あ、り、あ、り、と、い、ふ、思
ふ、お、と、し、の、あ、つ、つ、ま、城、に、い、ふ、も、と、ら、り、の、道、に、行
く、千、束、城、に、あ、り、お、と、し、と、い、ふ、二、年、と、つ、つ、と、い、ふ、を、れ
ふ、さ、城、に、あ、り、の、道、に、あ、つ、つ、あ、つ、つ、の、ま、あ、つ、つ、これ、本
を、あ、つ、つ、ま、と、ら、り、の、道、に、い、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、乃
も、う、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、

あ、り、あ、つ、つ、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
ら、い、は、よ、あ、つ、つ、
私、に、い、義、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
あ、り、て、目、ざ、し、一、束、を、あ、つ、つ、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
海、に、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
目、ざ、し、一、束、を、あ、つ、つ、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
は、藪、一、束、と、い、つ、つ、あ、つ、つ、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
あ、つ、つ、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、
實、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、い、ら、ふ、お、と、し、の、道、に、あ、つ、つ、

私云このうらたの事とあつたにせしめし
海幸あるべし或ともありうらたといふ
あら本といふは初め時つゝ海也といふも
あまきとあまきつゝみよきとあまき事也
又徳園身枕云ありうらたといふはありてあ
はまれえひすりきつゝあまき海よけきよ
あまらうらたの事也

今葉の是も海もあまきうらたといふ
う海あり又ありまづあまきとあまき
あまきとあまきつゝあまき事也

あまらうらたの事也

あまらうらたの事とあつたにせしめし
海幸あるべし或ともありうらたといふ
あら本といふは初め時つゝ海也といふも
あまきとあまきつゝみよきとあまき事也
又徳園身枕云ありうらたといふはありてあ
はまれえひすりきつゝあまき海よけきよ
あまらうらたの事也

りりせうそいもーたあめありのとらり
安者物云これよりかきあめいこいみられ
小毛の毛さくたりと布也あうぬ物
てもは布まればいりりていもいもい
あきれたらよまは事いあてお袖あいの
よきいよまはあていあていりり
し縁まていあていあてい
奥義物云きよりかきあめいこいみられ
きよの部りりりりりりりりりりり
き布まればし縁あつふとい云也

私云とりれ毛ーとをぬん事らりやゆん
或物よりたてゆれ、件布ハ惹毛よりのふ
ぬふいまてく麻よかそれあまあけてそれ
より帯とをぬてをきつたせとそれよりの
毛乃はきてもはもむゆりつきくもは布
ありうはちくうううま物あれたせま
かそれとぬてふいまてのよきとくその毛
とつあもよひりりりりりりりりりり
まののあきりいあめいあめい
うれ毛乃ぬのりりりりりりりりりり

け身も定説ありかしくは事ハその兼
いんと思人のふじ事ともあはあり
又きわらわそぬるといみちのこれきわら部
よりいそはぬのと奥義抄は是より記
兼ありみらるるれ部とも中よきよと
云部ありともいひことよきともよら部
よあはありといりそれともは部あり
のふらひられそきよのよりありとい
ふゆら部兼いんよらありといりそ
ぬらひすうきうよきよともあありと

云く徳固法師ニ云く奥州へそり又おね
へもはれはふくはは部兼木きよの
かそぬらよきよみされそのありる
あききわらりゆんは部ときわらわそぬ
ら事うくは部ともいひことう
うら

あふらひり

みらるるれあふらひり部人

うらんととも我あはく

部眼云志乃ふらひりと陸奥乃信史部

と云ふまゝのらひりきてみられたるはすなり成す
あり舟停揚相結づまじりたるこゝろぬかり
あゝあゝれ京りはらけはふまはふりきり
ふねふきりそれ置よいとまふあらしはか
かろひとまりうらおとくもまてきりおろ
えん少はらふいとまうたあてありた
くらほとひよまられたるはかゝり
ぬのほそ成まらしてうら成たて居るそのれ
とまのよまらうらうらまはまはかゝり
ふら成たてはうらまはかゝり

あゝのよまらうらうらまはかゝり
とあんとまははかゝりまはかゝり
りうら成たてはまはかゝり
みらうらたせまはかゝり
あゝよとまらうらうらまはかゝり
うら成たてはまはかゝり
私とまらうらうらまはかゝり
うら成たてはまはかゝり
すうら成たてはまはかゝり
あゝとまらうら成たてはまはかゝり

きこそとらふ伊豫物語乃身も古今おひりす
うろとありねの人はとらあゆへー
吾名物之志乃よりちひりとみち乃くふの
志のみのこちりよんたれと心すれんこれ
すりく心とそえはくえん心前乃者とや
てそれすり乃者と紙はくきこふあゆあり
遍照寺に巻乃巻りふそすくれてあゆし
と字めすいりたのまどりて故師大納言信長
乃に巻の巻りふまゆひとれてあゆし一うん世
人んくきふせしけはみみる巻りてくれと

うせよまゆひや量蒙抄のちすりといん
ちのらふれ志のふらちりよひりいせなせ
うらくかこまゆひとらりて巻る巻るの
何すこれ乃巻りあてあり
私云先年小民部心威乾心友家大史編載心
かよふいふれつれとあふ乃寺あつり一ゆり
志小遍照寺小務てゆり一乃乃母やに巻
ハんらり乃はらと尸抱あて母よひり乃へ
りみるうせてゆりあゆし一のよのくみ
す紙おりゆりようりて入りゆり

又中納言大將為長冬乃春日祭使ふく
里路しとりふ人くつらくお花紙たりて
きつめれたる中ふ前鳥助範總ノリノ子信總ノリノ
きあふらりらる衣紙きつらきゆらふあや
てみえられた故た京地ケイヂ次日範總ノリノり人
まらふんし志らふのこられ誰あん
ふのかとそく記りきられぬ
せらふあふむたうしき事いひてあふら

